

## ◇sync collective 委員会◇

|       |       |
|-------|-------|
| 専務理事  | 中川 弘則 |
| 副専務理事 | 秦 崇大  |
| 委員長   | 藤川 智大 |
| 副委員長  | 宮崎 尚之 |
| 委員    | 森本 祥也 |
| 委員    | 森脇 克己 |

### <事業方針>

1 青年会議所は、地域の課題に対して仲間とともに新たな解決策を創り出すために議論を  
2 交わし、地域の人を巻き込んだ事業を行っています。事業を行うために時間・労力を使い  
3 努力することで個人が成長し、個人の成長が組織の力となります。その姿勢が地域に活力  
4 をもたらし、地域の発展へと結びつけます。しかし、その考え方を新入会員やメンバーへ  
5 共有しても参加する機会が少ないメンバーは青年会議所の価値を体感できておらず、理  
6 解・共感に至っていないのが現状です。

7 背景・目的・手法を考えることでどのような効果を生むのか、スキルアップ事業を行い、  
8 メンバー一人ひとりが理解し、実感を深め共感を得ることが大切です。そして、組織としての在り方をもう一度見つめ直す機会を設け、自己研鑽やリーダーシップを育み、個人と  
9 しても大きく成長できる機会の場であり続けることが、地域から求められる団体としての  
10 姿だと考えます。修練・奉仕・友情の三信条のもと、地域に寄与できるメンバーを育み、  
11 仲間とともに活動や運動を続けることで確立した組織となり地域共創へつながります。

12 また、美馬青年会議所として運動内容の発信をおこなっていますが、その成果がメンバ  
13 ーにどう作用しているのか、地域にどのような影響を期待して事業が行われたのかを十分  
14 に認知してもらえていない現状があります。そこで、1年間の事業や例会を通じて運動を行  
15 わり、メンバー一人ひとりにスポットをあて SNS で発信していくことで、地域の人々に  
16 私たちの魅力や価値を知ってもらえるようになります。こうした発信を積み重ねることで  
17 共感が広がり、新たな仲間との出会いが生まれ、会員拡大にもつながっていきます。結果  
18 として情報発信は単なる広報にとどまらず、地域の可能性を共創する原動力となること  
19 で確立した組織となります。

20 総務広報委員会は、組織の内外を結ぶ架け橋となり、地域と人々に活力を生み出すこと  
21 ができる委員会です。私も入会し 6 年目となり本年度委員長を務めさせて頂きますが全て  
22 の活動を通じて、感謝の心と責任感を持ち、仲間とともに挑戦し続け、この一年間誠心誠  
23 意取り組みます。

24

### <事業計画>

1. 総務広報事業の企画・設営・運営(1月.4月.9月.12月)
2. 例会の企画・設営・運営(1月.4月.9月.12月)